公立大学法人 宮城大学 MIYAGI UNIVERSITY

令和２年度入学　一般選抜後期日程
外国語（英語）　講評

第１問

【出題のねらい】

専門的な語彙が含まれている文章の大意を掴んだ上で，文の構造，文法，語法，単語を理解し内容を把握する力をみることをねらった。

【講評】

全体の正答率は 3 割程度だった。全 6 問中 4 問が記述問題であったため，難易度が高かったと思われる。

問１

構文，文法，関係詞，形容詞，接続詞，語彙などに関する問題で，前後の文脈から解答を推測することができる。基本的な文法を確認しておくことが望ましい。

問２

この問題の正答率は非常に低かった。その理由として，Instructions と distributed という単語の意味を理解していない解答が多かったことがある。さらに，attack が「攻撃する」という意味ではなく，「着手する」などの意味であることを理解していない解答も多くみられた。たとえ attack の他の意味を知らなくとも，最初の数段落をよく読めば，その意味が推測できるはずである。知らない単語の意味を文脈から推し測る練習を，日常的に行うことが望ましい。

問３

コロン（：）の役割が分からず，本文全体の内容をまとめた解答や自分の考えを述べた解答が散見された。難易度はそれほど高くなかったと思われるが，take over や feed の解釈は様々であった。feed を「エサを与える」等のようにそのまま訳す解答から，「コミュニティを活性化させる」等，意訳した解答もあった。また，白紙解答も一定数あった。

問４

満点の解答をした受験者は少なかった。該当文の後半部分 beyond just growing food（単に食物を育てるという以上に）を間違えて捉えている解答が非常に多かった。また，turn out to be true（現実のものとなった）の意味を理解していない解答も多かった。さらに，this motto の内容を具体的に記さず，it を「それ」と訳したり，this motto の文中に出てくる grow を自動詞の

意味（育つ，成長する）で捉えたりしている解答も散見された。

問５

名詞が何を指しているかを把握する力をみることをねらった問題。How the toddies do it から toddies が，トッドモーデンの住人のことであることを理解する必要がある。日頃から，代名詞や名詞が何を指しているのかに気を付けながら読解をすることが望ましい。

問６

大意を捉えながら，Incredible Edible についてまとめる問題。forgiveness を「寛容さ」ではなく，「忘れない」などの誤った意味に捉えている解答が多かった。また，nailed to walls「壁に釘で留める」，beds「花壇，苗床」を適切に訳している解答はほとんどなかった。白紙解答も多かった。重要な点を上手くまとめることができるように，英文の要約を日頃から練習しておくことが望ましい。

第２問

【出題のねらい】

文章を読み，内容を正確に把握する力をみることをねらった。問 1 から問 4 までは，文章中の特定の部分に関する理解を問う問題で，問 5 はタイトルを考えさせる形で文章全体のテーマに関する理解を問う問題になっている。

【講評】

4 割の正答率であった。長文の流れを掴みながらも，細かい箇所まで読み解くことが求められる。全体として，細部に関しての正しい読解が不足しているようであった。

第３問

【出題のねらい】

会話文を読み，それぞれの状況において，適当な英語で表現する力をみることをねらった。その上で，その場にふさわしい単語や表現を用いて会話を作成できるかを問うた。

【講評】

3 割程度の正答率であった。本問題は，教員と学生の間の会話における表現を理解しているかどうかをみる問題であった。多くの受験者が，③の run out of「時間がなくなってしまう」を適切に解答できていなかった。また，前後関係をよく読み，本文のヒントを活用することができていない解答も散見された。例えば，⑥の問題は，本文の at the time「プレゼンを一緒にやろうと決めた時点」とうまく合うように文を作らなければならないが，ほとんどの受験者が適切

に解答できていなかった。

第４問

【出題のねらい】

英語の会話文を読み，会話の流れを掴むことができるかをみることをねらった。その上で，流れにふさわしい発話を選べるかを問うた。

【講評】

全体の正答率は 8 割だった。本問題を適切に解答するためには，日頃から多くの会話文を読むことで話の流れを掴む練習をすることが望ましい。特に会話で多用される決まり文句などを覚えることや，日常生活に関する身近な話題について会話的な英語で表現する練習をしておくことが，会話表現を適切に使用する上で役立つだろう。

第５問

【出題のねらい】

本問題は，提示されている条件に従い，題目に関して―賛成か反対か，自分の意見を英語で述べることができるかをみることをねらった。

【講評】

正答率は 4 割程度だった。多くの受験者が“plastic bags cost money”“stores charge for plastic bags”「プラスチックバッグを有料にする」という表現を解答できていなかった。また，助動詞 could， should，would の使い方のミスが散見された。内容に関しては，英文を 5 文以上書くという条件であったためか，5 文のみの解答が多かったが，自身の意見への論拠を詳細に示すためには英文を 5 文以上書き，内容を深めた記述とすることが望ましい。